

野々市市まちづくり基本条例策定委員会第7回

【日時】2014年4月7日 19:00～21:00

【場所】野々市市役所201会議室

【参加者】

委員12名：池田、亥野、大森、小竹、小堀、小松、中村、新美、林、藤田、山岸、吉岡
(五十音順、敬称略)

市職員ワーキンググループ10名：山崎、古谷、前川、熊谷、有東、宮岸、水野、石田、小泉、
(梅木)

事務局6名：金場、栗山、中谷、舟崎、北、徳野

【欠席者】大島、絹川、村井、谷内、神谷、
飯山、池多、池上、勝井、榊原、水元

1. 開会

栗山：定刻になりましたので、第7回野々市市まちづくり条例策定委員会を開催いたします。

本日は絹川さん、大島さん、谷内さん、村井さんの4名が欠席と聞いています。小松さんは少し遅れると聞いています。本日から市職員ワーキンググループがこの委員会に加わる
こととなります。ワーキンググループで名前を点呼された方は起立して下さい。山崎さん、
古谷さん、前川さん、熊谷さん、有東さん、宮岸さんが遅れていて、水野さん、石田さん、
小泉さんの9人が出席となっています。本日は、最初に前回会議の振り返りを行います。
前回は絹川さんからのご意見について議論しました。今日は皆さんの身近にある「まちづ
くりあるある」を探していただき、まちづくりの合い言葉づくりをテーマに進めていき
たいと思います。会議の前に、4月から市の体制が変わりましたので、簡単に事務局の紹介
をさせていただきます。まず、市民協働課長の金場をご紹介します。

金場：4月1日から多田の後任として市民協働課長になりました、金場と申します。よろしく
お願いします。条例策定委員会がこれまでに6回開催されて、今日が7回目ですが、途中
で担当課長が変わってしまい、皆さんにはご迷惑おかけしているかと思います。私は3月
まで公益財団法人野々市市情報文化振興財団で、市からの派遣で3年間勤めておりました。
情報文化振興財団は、「市民協働によるまちづくり推進指針」の市の現状というところにも
掲げていただいています。金沢工業大学、石川県立大学との大学連携事業や、野々市
市情報交流館カメラを拠点に活動するカメラパルの会の協力を得ながら、市民主体の
まちづくりを目指しています。私の家は本町3丁目で、地域の祭りなどの手伝いなどにも
関わっており、市民協働の流れの重要性を感じていたため、皆さんとともに知恵を絞って、
まちづくり基本条例の策定に向けて頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い

致します。

栗山：次に、ビデオカメラを回しておりますのは、市民相談担当の徳野課長補佐です。

徳野：徳野です。よろしくお願いします。

栗山：次に、新しく市民協働担当になりました、舟崎です。

舟崎：舟崎です。よろしくお願いします。

栗山：引き続き、カメラの撮影をしておりますのは北課長補佐です。

北：北です、よろしくお願いします。

栗山：引き続き、市民協働担当の中谷です。

中谷：中谷です。よろしくお願いします。

栗山：前任の中川に代わり事務局の取りまとめは、私、栗山が引き継ぐことになりました。今後ともよろしくお願いします。それでは、資料の確認をさせていただきます。議事録は、全文のものと要約版は事前に配布させていただいております。本日の資料としては、第2回から5回までのグループワークの意見一覧、前回のグループワークの意見をまとめた図、プロセスデザインの会議の流れを直したもの、振り返りシート1枚、山岸さんからいただいたA3用紙で条例の項目について書かれた資料です。それから、市民協働の啓発ポスターリーフレットも配布しています。このリーフレットの中身はポスターですのでご覧下さい。資料が不足している方がいらっしゃればお渡ししますので、何かありましたら随時言っていただければと思います。それでは森山さんよろしくお願いします。

2. 第6回会議の振り返り

森山：皆さんこんばんは。今日はワーキンググループの方が入って人数が多くなっていますね。

ファシリテーターの森山です。今年度もよろしくお願いします。せっかく新しいメンバーが入ったので、復習として2回目から5回目までのグループワークの資料を配布させていただきましたので、委員の皆さんにも思い出していただければと思います。ワーキンググループの方は今日が初めてだと思うので、自己紹介を兼ねて、今までの会議で話してきたことを共有する時間を持ちたいと思います。この会議にあたってのルールとしては、必ず前回会議の振り返りをしてから会議を始めることと、前回から今回の会議までに言い忘れた意見があれば事務局に伝える、その場で意見を言えなかった人の意見も最初に確認してから会議を始めるというルールがあります。ワーキンググループの方も、今日の会議後に思いついたことがあれば事務局に伝えて下さい。本委員会では、限られた時間でできるだけ多くの方が発言できるように、小グループに分かれて議論をすすめています。グループの中でも1人ばかりが話さないように配慮をお願いします。今日は今までの議論を共有し、前回から予定していた「まちづくりあるあるゲーム」を行い、条例を定めるときの論点の

整理を目標にしたいと思います。9時までには終わらないかもしれませんが、終わらなかつたら次回に行いましょう。6回も会議を行うと委員の皆さんは顔と名前が一致してきたと思いますが、もう一度自己紹介を行います。せっかくなので今までの会議の内容の共有と兼ねて自己紹介をして下さい。委員会メンバーの方は、A4の紙にこれまでの委員会の中で一番印象に残っていること、共有した方がいいというポイントを書いて下さい。今までの議論の中で大事な話や、何も思い浮かばない人は、これまでの委員会の感想を記入しても構いません。ワーキンググループの方は、A4の紙に所属と名前を書いて、この会議に期待する事を書いて下さい。ワーキンググループは何をする人かを委員の方は理解していますか。

栗山：委員の皆さんに一文一文の条文を考えていただくことは難しいので、条例を文章化するときに力になってくれるのが行政の職員であるワーキンググループです。私たち事務局以外にも色々な部署の市の職員で構成されています。

森山：ワーキンググループはプロの行政マンで、私たちの思いを条例の形にしてくれる人です。それでは各自の意見を書いて、グループの中で発表しましょう。話が長くなってしまうので、書いたこと以外は言わないようにしましょう。

〈各テーブルで各自自己紹介と意見発表〉

森山：それでは、1グループにつき1人代表として皆の前で発表してもらいます。

梅木：4月から産業振興課に配属されました、梅木花奈子と申します。先月まで学生だったのでまだ半分学生、半分職員のような気持ちです。私が期待することは、市民協働という言葉が教科書的な意味でなく、もっとわかりやすく、市民協働に変わる言葉でわかりやすく表現して市民の方に伝えられないかと思っています。

森山：私は彼女を大学2年の時から知っています。彼女は、鯖江市役所で市民主役という言葉の説明の際、議論の末に市民協働を見いだしていました。

小堀：これまで会議を行ってきた中で、第2回のいいまちづくりの要素、第3回のまちづくりの課題という相反する議論を行い、データにしたことは大変いいことだと思います。そのデータをもとに、今回は自主性や自発性をもってまちづくりを行うという議論を行いました。抽象的な概念ではなく、自主的、自発的な人になってもらうために教育したり、リーダーが色々なことをしなければならないということを議論してきました。自発的という言葉は、推進指針にも書いてあるように、自発心と連帯感と創造力を掛け合わせてできており、一つでも欠けると成り立たないということを説明しました。ワーキンググループの方が野々市のことが大好きになるようなまちにしたいと言われたので、なるほどと納得し、教えていただいたような気持ちです。

小泉：上下水道課の小泉です。この会議は、市民の方々と色々な意見を交換する貴重な機会で

すし、皆さんが日々の生活の中で感じているささいなことでも、色々と話を聞き、うまく条例に反映させていけば、野々市をつくる第一歩になると思うので期待しています。

森山：それでは、事務局チームも自己紹介をお願いします。

栗山：市民協働課の栗山です。この会議では、野々市を育てていく熱い想いに期待しています。

今までの会議の印象は、皆さんから様々な意見が出て良かったのですが、会議を月に2回やろうという意見が皆さんから出てきたことが非常によかったです。それが熱い想いが込められているということだと思います。よろしくお願いします。

森山：ありがとうございます。それでは次の方をお願いします。

有東：私がこの会議に期待することは、協働に対する思いを、市民と行政で共有をしないことにはいい条例が作れないのではないかと思ったので、共有に期待しています。

森山：ワーキンググループの方には今までの6回分の会議をおさらいしてもらわなければならないので、骨が折れることだとは思いますが、野々市市の職員の方は優秀なので大丈夫だと思います。回を重ねるごとに皆さんが気軽にお話をしていけるようになればと思います。皆様、議事録はお持ちでしょうか。毎回恒例の振り返りを行います。前回会議は、年度末3月26日に会議がありました。その会議では、絹川さんからの議題について皆さんで話し合い、意見を絹川さんにフィードバックすることが決まりました。今日は既に何人かの方が「まちづくりあるある」を考えてきたそうなので、この後皆さんの前でも出していただきたいと思います。要旨の1ページにあるのは前回皆さんに書いていただいた振り返りシートの意見です。最初の会議の進行の部分は割愛します。ワールドカフェのやり方は皆さんに気に入っていただけただけようで、様々な意見が出ました。2ページには絹川さんの意見について、自主性、自発性を持ってというテーマが難しかったのですが素晴らしい議題をありがとうございますというご意見がありました。まちの課題が必ずしも行政の課題とは限らないという意見も出ていましたが、そもそも野々市にどのような課題があるかわからないという意見が議論の中でも振り返りシートの中にも出たので、どこにどのような課題があるかを知る場が必要だということがわかりました。それから、町内会についてです。これは第6回で注目されたワードなのですが、やっぱり町内会抜きにまちづくりを語ることはできないということです。公民館との連携、小学校区と町会が合致していない、自主防災や壮年団などの各種団体があるのですが、それらをどう役割分担して地域の課題を解決するかが重要ではないかということです。振り返りシートの●は会議後にFAXで寄せられた意見です。これは絹川さんの意見なのですが、絹川さんからも議会と市民、町内会と市民などのまちの様々なまちづくりの主体が、どういう役割分担、どういう関係にあるかを考える必要があるという意見が出されています。また、前回初めて出た話として、町内会の話から派生して、リーダーの育成の話が出てきました。町内役員のみ手がないいな

どの課題があるため、自主性や自発性をもってもらうには小さい時からリーダーを育成していくことは、まちづくりをやっていく上で大事だという意見は皆さんの印象に残ったようです。そして、自助、共助、互助、公助の4つのワードは、互助は共助の一部だという考え方でいいのではないかという多田前課長の意見に納得したという意見がありました。先日、絹川さんから再び FAX で、「素っ裸と真っ裸について何か違いがありますか」という意見が届きましたが、互助と共助の言葉の使い分けの議論に時間を使うよりは、共助でいいのではないか、先に進めましょうということです。その他意見のところでは、まちづくりの多様な主体の位置づけと関係性と役割分担について考えなければいけないという意見がありました。子供や女性、町内会、色々な立場の方々がそれぞれにまちの将来像を考えているのではないか、その将来像はどのようなものなのだろうということです。それから、広報や新聞で公開された情報を私たちは把握しているのかという疑問が出ました。条例は中学生が読んで理解できる表現にするべきだという大事な意見が出ました。これは最終的にワーキンググループの方々に気をつけていただきたいところなのですが、難しいことをやさしく、やさしいことを深く、深いことを面白くという井上ひさしさんの言葉を引用されています。次に、スケジュールの日付けをもとに今後のプロセスデザインを作成したので確認します。来月、市長に提言しようとする、骨子案のまとめまでに4回の会議を行わなければなりません。市長への提言を6月にできればいいのですが、会議が1回分押しましたので、今月と来月は頑張らなければいけません。そのときに重要になるのが、山岸さんに作っていただいた資料です。山岸さん、説明をお願いします。

山岸：欠席が多かったのですが、他のまちの条例を参考に、条例の項目を表にしました。使っている用語が同一なものに○をつけています。総合計画も入れています。精査はしていませんが、ワーキンググループの方は、難しい言葉を使わずに条文を作るのであればこれを参考にしていただければと思います。

森山：ありがとうございます。この資料があれば、野々市は条例にどの項目を入れるかという話はできるということですね。今までの会議で積み上げた内容をもとに条例を作りますが、最終的に条文の項目を考える際に、とてもわかりやすい資料ですね。自発的に資料作成をしていただきましたが、このように皆さんの自発性で議論が進んできています。ここまで質問やご意見はございますか。もう一つこの会議のルールとして、皆さんの意見を聞く際に番号札を使っています。質問の有る方は1番、質問がある気はするけれども今は言えない方は2番を、質問がない方は3番を挙げて下さい。挙げるときは1枚だけ挙げて下さい。皆さん3番を挙げたので次に進みます。

3. まちづくりあるあるの抽出

森山：それでは、まちづくりあるあるにいきたいと思います。宿題として考えて書いてきた方は1番を、書いてはいないけれども普段の生活の中で探してきた、考えてきた方は2番、忘れていた方は3番、知らなかった人、ワーキンググループの方は4番の札を挙げて下さい。前の2グループは1番と2番の人が多いので書けそうですね。A4の紙を使ってよくあることを書いて下さい。いいことでも困っていることでも構いません。ただし、こうだったらいいなという理想は書かずに、現在のありのままの野々市、まちの現状でよくあることを書いて下さい。例えば、町内会で役員を決める時になり手がいないという問題、のっぴバスで市役所に行くときに車内が老若男女で賑わっているなどいいと思っていることでも良いです。皆の共感を得られるようなことを一人2つは出して下さい。この人数だと全部で40枚以上出るはずですよ。3分で書けるだけ書いて下さい。1枚の紙に1意見だけを書いて下さい。イメージがわからない方は、協働の現場をイメージするといいと思います。例えば行政の担当者が変わると、話が変わるなどがありますね。

〈各自まちづくりあるあるの意見を書く〉

森山：皆さん、思ったよりたくさん意見が書けていますね。まず、意見をグループの中に出しましょう。課題、与件、良いことという分類を作りました。良いことは皆さんわかりますよね。困っていることの中で、困りごとは与件か課題かで分けてほしいのです。与件と課題の違いは何かというと、与件は仕様のないことで、例えば高齢化問題などです。逆に、少子化はこれから出生率が増えれば解決可能な話なので、解決できる困りごとです。今回は課題に時間をかけたいのです。与件は仕様のないことで、議論に時間をかけても意味がありません。皆でやり方を考えたり、ルールを決めたりすると解決できるなんとかなりそんなことは課題にしてほしいです。まずは分ける作業をグループで行って下さい。

〈グループ内で課題、与件、良いことを3つに分類する〉

森山：グループ内で分類できたら、まずは、良いことを前の模造紙に貼りに来て下さい。

〈各自良いことを前の模造紙に貼る〉

森山：次は与件を貼って下さい。

〈各自与件を前の模造紙に貼る〉

森山：良いことと与件を出したので、皆さんのテーブルにある意見は全て課題ですね。課題をさらに細かく、自発心に関係する課題、連帯感に関係する課題、創造力に関係する課題、まちづくりの仕組みをどうつくるかということは仕組みという分類に入れて下さい。各模造紙に自分の意見で当てはまるものを、まちづくりへの気持ちに関わる場所は自発心、皆で協力していきましょうというところは連帯感、創造力、さらに仕組みの問題、身近な話でその他の5種類に分けてほしいのです。

〈各自模造紙に分類して貼付ける〉

森山：意見が出そろいました。ご覧の通り、自発心と連帯感に意見が集中していますが、共感した意見に投票していただきます。ふせん紙を3枚ずつ持って、自分の名前をふせんに書いて、出された意見で共感したものに投票して下さい。

〈参加者が意見を見て共感した意見に投票する〉

森山：ありがとうございました。一番多く貼ってある意見はどれでしょうか。一番多い7票の意見は、ボランティアをする人はたくさんいるが同じ人ばかりという意見、出身地を聞かれたときに金沢だと言ってしまうという意見です。これは野々市の人は金沢に近いのでまだ許されると思うのですが、この現象は何に起因するのでしょうか。

小堀：車のナンバーで野々市市民は金沢ナンバーはつけられないのですが、金沢ナンバーを増やすときに野々市は金沢ナンバーが適用されるかどうか議論になったことがありますね。

森山：これは課題なのかもしれないですね。私は、学生時代に出身地を聞かれたら意識せずに七尾と答えていましたが、別の七尾の人は出身地を金沢と答えていました。次に共感が多く6票の意見は、市民活動団体で役員を決めるときに同じ人に役職が集中するという意見、何かしようとする時に行政も市民もそっちでやってよとなりがち、行政と市民で押し付け合う意見ですね。5票の意見は、若い人が参加するよにという割に若い人の話を聞けない人（老人）が多いという意見などです。投票が多い意見は皆さんが課題だととらえていることだと思うのですが、これを逆手に取って合い言葉を作りたいのです。例えば、若い人の意見を聞かない人が多いという意見から、まちづくりに関しては若い人の意見をきくべきだという意見を共有したいのです。次に、良いことと分類された意見を見てみましょう。これは、野々市でまちづくりを行うにあたっての強みです。町内会活動で、各班長の声かけひとつで出席者が返答しているという意見は、声かけができればちゃんと来てくれるということですね。それから、子供が参加できるバーベキューや運動会などのレクリエーションは家族連れの参加者が増加しているのは、さすが若いまちならではのことですね。集まる場所をどこかに決める時に大きな駐車場がある施設が多いのもいいですね。市のイベントに農家団体がよく参加してくれているので地産地消の機会を得やすいのは知りませんでした。若い人に意欲のある人が多いというのは私もそう感じます。大学生が活動している情報が市役所に入ってきてやすいというのは金沢工業大学があるからでしょうか。市が公募委員を募集したらちゃんと集まるというのは皆さんのことですね。大学生が祭りやボランティアで頑張ってくれているのはいいですね。黙っていても助けてくれないが、助けてといえは助けてくれるという意見もあります。野々市が大きいので歩いてどこへでも行ける、市街地を歩くと人のにぎわいや人の気配がする、朝の挨拶運動などの声かけ、野々市には大きな箱ものの施設がないので広く感じるなどが良いこととして挙げられて

います。

4. 印象に残ったこと、次に議論したいことの共有

森山：ここまでで感じたことを共有したいので、先に振り返りシートに印象に残ったこと、次に議論したいこと、気がついたことや発見などを書きましょう。

〈各自振り返りシートにここまでの感想を記入〉

森山：皆さんがまちづくりを進める上で大事にしていきたい考え方を前文にできるだけ盛り込んでいければと思います。今回は時間がないのでまちづくりの合い言葉づくりは次回行います。今日出た意見をまとめてきますので、これをもとに次回は合い言葉を考えましょう。次回までに大事にしたい考え方をイメージしてきて下さい。残りの時間で今書いた感想と、今後話すべき論点をグループの中で共有して下さい。山岸さんの作ってきてくれた資料でいうと、条例の中で、子供の扱いをどうするか、市民の定義をどのように書くべきかなど、まだ話し合う必要があるテーマをグループの中で話し合ってもらいたいと思います。

〈感想や印象に残ったこと、今後話し合う論点をグループ内で発表〉

森山：それでは、各グループで出た今後話し合うべき論点を発表していただきます。

林：私たちのグループでは、出身を聞かれたときに野々市ではなく金沢と答えてしまうこととは逆に、野々市らしさを売りこんでいきたいと思いました。前文についてはよく考えて構成しないと、野々市らしさがなくなってしまい、ありきたりなものになってしまいます。余談ですが、金沢の百貨店のお酒売り場で野々市のお酒である「ichi 椿」が売っていて野々市を愛する人としては嬉しかったです。

森山：ありがとうございました。野々市らしさをいかに出すか、前文に盛り込まなければならぬことを今後議論していきましょう。

水野：このグループでは、主に感想の発表をしていたのですが、創造力に関するコメントが少ないという意見が出て、創造力という言葉が皆でイメージできるようになることが必要だと話していました。野々市らしさを作ることは創造力につながるし、野々市らしさをつくるためには野々市のことを好きになって、野々市のことを知っていく必要があります。私たちの世代はもちろん、子供や女性、学生を巻き込んで、役員を決める時に忍びない気持ちになるのではなく、誰でもなれるように、自発心はもちろん連帯感も持って、皆で野々市を好きになるといいという話をしました。

森山：ありがとうございました、創造力も大事ですね。

中村：私たちのグループでは、一人の意見しか聞いてないのですが、それでもよければお話しします。ワーキンググループの方に、どこまで進んでいるかという話をして、山岸さんに作っていただいた資料をもとに条例に何を盛り込むかを議論している段階だという説明

をして終わりました。

森山：状況説明をしたということですね。ありがとうございます。今まで出してきた意見は、今日お配りした資料にあります、これらは全部条例づくりのための材料です。材料が出てきて、どのような料理を作るかはまだ見えていません。材料が出てきた状態なので、どう組み合わせると条例までもっていくのはこれから行います。いい材料が集まっていますので、いい味が出るはずですよ。

宮岸：市役所の企画課の宮岸と申します。このグループでは、これからどうしていくかを話していく中で、連帯感や自発心など具体的な意見が出て、それを裏返したものを条文にしましょうという話だったのですが、条文に具体的なことを書いていくのかどうかをこれから話し合う必要があると話していました。材料は揃ったので、面白く作るということで、例えば緑を愛する心を持ちましょうと言うのか、緑を持ちましょうという具体的な話なのかを、皆さんで話し合っただけで知っていくことが、条例を作る上で必要だと話しました。

森山：第2回会議で、どのようなまちを作るかを話したのですが、皆さんは夢や、野々市に対する想いは具体的に持っているし、お年寄りが困っていたり、役員のなり手がいないなどの課題も具体的に見えています。それをどう解決するか、Howの部分で条例で扱うと言いました。条文自体は抽象的になると思うのですが、具体的なことに基づいての抽象でないという意味をなしません。皆さんで具体的に考え、課題を解決するための条例になればいいとファシリテーターとしては思っています。文言だけがあって、魂がないというのが一番よくないので、魂を入れて野々市のまちづくり基本条例を作っていきたいと思います。事務局にも今年度のスケジュールをチェックしていただければと思います。それでは、最後に会長にご挨拶をいただきます。

5. 閉会

藤田：今日はありがとうございました。今日は神谷先生からドイツの良い話が聞けると聞いていたのですが、今日は欠席ということで残念でした。今回はワーキンググループの方々に集まって熱い想いをいただいて、考え方の幅が広がったと思います。委員会のメンバーだけで議論しているとどうしても煮詰まってしまうので、皆さんに広げていただいた意見をもう一度練り直していきますので、ワーキンググループの皆さんはお忙しいでしょうがまた参加していただくとありがたいです。この委員会は、若い年代が少なく、年配の意見が多いです。年配の意見だけでは取りこぼすこともあると思うので、若い人の意見が集まる事で意見を見直すことができると思います。本当にたくさんの意見が出たのでありがたいと思います。またよろしくお願ひします。

栗山：ありがとうございました。次回第8回の日程なのですが、4月21日月曜日19時から

市役所101会議室と日程に書いているのですが、人数が多いので改めてご連絡させていただきます。それでは、次回もよろしくお願いいたします。